JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	知床のエコツーリズム戦略と地域資源の活用・保全
Author(s)	敷田，麻実
Citation	第17回野生生物保護学会北海道大会プログラム・講演要旨集：25-25
Issue Date	2011-10
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16899
Rights	Copyright (C) 2011 「野生生物と社会」学会．敷田麻実，第17回野生生物保護学会北海道大会プログラム・講演要旨集，2011，p.25．
Description	

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

パネリスト5

知床のエコツーリズム戦略と地域資源の活用・保全

敷田麻実
北海道大学観光学高等研究センター教授・適正利用・エコツーリズムワーキング座長

生息する野生生物をはじめとする知床半島の生態系は、地域にとっての「資源」である。地域に住む人々は漁業や狩猟で生物資源を利用し、地域経済を豊かにしてきた。一方、知床ブームから顕著になった観光では、地域外の観光客も含めた地域内外の人々が資源を利用し、地域の繁栄を築いてきた。それは2005年の世界自然遺産登録でさらに拡大し、遺産地域のOUV(Outstanding universal value)を対象とした「知床大自然体験」のような観光は、年間約180万人の観光客を集める「知床ブランド」を形成しはじめている。

その一方で、知床の自然環境利用には課題もある。例えば、観光客の集中や交通渋滞、植生破壊につながっている。またヒグマと観光利用の軋轢など、野生生物の観光資源化は新たな「利用調整」を必要としている。

しかし、観光で遺産地域の自然環境を持続可能に利用するための基本方針や合意に基づく管理が十分ではないので、観光と自然環境保全が対立することが多かった。また知床のエコツーリズムをどのように推進するかについても全体の合意はできていなかった。

そこで、遺産地域の原生自然をより高度に利用し、自然環境保全とのバランスをとるための戦略が必要になっていた。同時に、IUCNが「統合的なエコツーリズム戦略を出来る限り早急に策定すること」を勧告しており、問題解決のための選択肢のひとつとして、「知床エコツーリズム戦略」の検討が「知床世界自然遺産地域適正利用・エコツーリズム検討会議」で2010年から進められている。

エコツーリズムや自然環境を鑑賞する観光は、人による自然環境の利用を基本とした分野であり、そこでは、地域資源としての自然環境の利用とその保全の調整がテーマとなる。知床エコツーリズム戦略では、こうした基本的な調整機構を地域独自で樹立することを検討しており、遺産地域の環境ガバナンスを構築する画期的な戦略となりえるだろう。

この発表では、知床エコツーリズム戦略の策定の持つ課題と期待される役割、また戦略の樹立から実施に誰がどのようにかかわるかも含めた今後の地域環境ガバナンスについて報告し、自然環境を活用しながら保全する政策を地域で創出する必要性とそ実現性について考察する。